



**Q** 子供が不愛想に口答えするようになり、反抗期かと思いますが、親の対応は？

**A** 許容範囲を広げて認めてあげ、譲れないことには、**「柔らかい壁」** になりましょう。

**反抗することで自我を形成**

だれもが激しい反抗期を通して  
するわけではなく、いつのまに  
か通り過ぎる子もいます。『反  
抗』は自我が形成されるプロセ  
スです。その対象は身近で世話  
し、信頼関係のある母親に向け  
られることが多いようです。

この時期は心身の変化が激し  
く、自分は何でもできるという  
『万能感』と同時に『劣等感』を  
持ちやすいのが特徴です。

自立心と依存心の間で揺れ動  
いているので、親にひどい口の  
利き方をしていたのに、急に甘  
えてきたり、親から見ると気分

屋に見えます。でも、それをか  
らかつてはいけません。

子供の反抗に、親は「柔ら  
い壁」になりましょう。強く跳  
ね返す壁ではなく、許容範囲を  
広げながら、いけないことはい  
けないと伝えます。親の態度が  
変わらなければ、子供はやがて  
反抗期を超えて行きます。

**親がしてはいけないこと**

親が子供と対等に争ってはい  
けません。カチンとくるのは  
子供と同じレベルになっている  
からです。子供の心を傷つける  
言葉や、「あなたのことは知ら  
ない！」という突き放した言葉

もNG。ぐつと我慢しましょう。  
逃げ場がないほど追い詰めると、  
親子関係が複雑になり、後々ま  
で尾を引くことになります。

男の子は父親が歩んできた道  
を、女の子は母親が通ってきた道  
をたどって成長します。夫婦  
が連携すれば策も見えてきます  
よ。

親子関係がぎくしゃくしても、  
愛情は具体的に表しましょう。  
「行ってらっしゃい」「お帰りの  
さい」の言葉や、食事に心を込め、  
日干しの寝具で心が和むように。  
「子供は3歳まで一生涯の親孝  
行をする」と言います。どっし  
り構えていきましょう。